

第1章 事業の総括評価

趣 旨
評 価 結 果
総 括 評 価

事業の総括評価

平成30年度 日本・韓国青年親善交流事業

I 趣旨

日本・韓国青年親善交流事業は、昭和62年度に開始され、本年度は32回目の実施となった。

本事業は、日本と韓国の青年相互の理解と友好の促進を図ることを目的とし、日本政府と韓国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の理解と友好を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

以上の目的を達成するため、日本及び韓国の双方において、国家及び地方行政組織への表敬訪問、テーマを

選定した両国青年による合宿型ディスカッションプログラム、首都に加え複数の地方都市における地元青年との交流やホームステイ等、様々なプログラムを実施しており、人的交流の重視を基本としつつ、毎年見直しを行っている。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年及び韓国招へい青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、日本参加青年に対しては、事前研修時と帰国後研修時に、能力向上に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から6段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

※参加青年に対して行った5段階評価のアンケートの詳細については「第4章 資料編」参照。

II 評価結果

1. 事業目的の達成度

①日本と韓国の相互理解の促進

<日本参加青年>

「この事業を通じて、あなたと韓国の人々との相互理解が深まったと思いますか [1- (7)] との問いに対して、日本参加青年は84%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、高い評価であった。

<韓国招へい青年>

「この事業を通じて、あなたと日本の人々との相互理解が深まったと思いますか [1- (6)] との問いに対して、韓国招へい青年は93%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。

②日本と韓国の友好の促進

<日本参加青年>

「この事業を通じて、あなたと韓国の人々との友好が深まったと思いますか [1- (8)] との問いに対して、日本参加青年は84%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、高い評価であった。

<韓国招へい青年>

「この事業を通じて、あなたと日本の人々との友好が深まったと思いますか [1- (7)] との問いに対して、韓国招へい青年は全員が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。

③プログラムへの満足度

<日本参加青年>

訪問国プログラムの内容についての全体評価 [2- (1)] は、日本参加青年は96%（無回答1名を除く）が5段階評価の4（良かった）以上を付け、極めて高い評価であった。

プログラム別に見ると、5段階評価の4（良かった）以上を付けた日本参加青年は、「施設訪問 [2- (5)-1]」が23名、「ホームステイ [2- (7)]」が22名、「地元青年との交流 [2- (4)]」が21名（無回答1名を除く）、「合宿型ディスカッション [2- (6)]」が20名であった。

「施設訪問」の評価が高かった理由として、「あなたは、なぜこの事業に参加したのですか（複数回答可） [1- (1)]」との問いに対して、22名の日本青年が「韓国の社会事情、文化等に関心があるため」と答えていることから、多様な施設訪問を通じて多角的に韓国の社会事情を学ぶことができたことが一因として考察できる。また、同様の問いに18名の日本参加青年が「韓国の人た

ちと人脈を築いたり、友人となったりするため」と答えていることから、韓国人の友人をつくるきっかけとなった「ホームステイ」や「地元青年との交流」の評価につながったものと考察できる。

<韓国招へい青年>

招へいプログラムの内容についての全体評価〔2-(1)〕は、韓国招へい青年は全員が5段階評価の4(良かった)以上を付け、極めて高い評価であった。

プログラム別に見ると、5段階評価の4(良かった)以上を付けた韓国招へい青年は、「ホームステイ〔2-(8)〕及び「岐阜県プログラム〔2-(7)〕」が全員、「日韓青年親善交流のつどい〔2-(4)〕」が26名、「課題別視察〔2-(3)〕」及び「滋賀県プログラム〔2-(6)〕」が21名、「日本青年との都内視察〔2-(5)〕」が18名であった。

「ホームステイ」の評価が高かった理由として、「あなたは、なぜこの事業に参加したのですか(複数回答可)〔1-(1)〕との問いに対して、20名の韓国招へい青年が「日本の社会事情、文化等に関心があるため」と答えていることから、韓国招へい青年は日本の地域文化や伝統文化に対して高い関心を抱いており、ホームステイを通じて日本生活文化を体験できたことが一因として考察できる。

また、「日韓青年親善交流のつどい」の評価が高いことから、日本青年と寝食を共にした合宿ディスカッションが日韓相互の理解と友好の促進に大きな効果があると考察できる。

④事業参加による参加青年の将来への影響

<日本参加青年>

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか〔1-(10)-1〕」との問いに対して、日本参加青年は全員が5段階評価の4(役立つと思う)以上を付け、極めて高い評価であった。また、そのうち44%が5(とても役立つと思う)であった。

<韓国招へい青年>

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか〔1-(8)〕との問いに対して、韓国招へい青年は96%が5段階評価の4(役立つと思う)以上を付け、極めて高い評価であった。また、そのうち54%が5(とても役立つと思う)であった。

これらの評価から、本事業が参加青年の将来形成に大きく役立つことが考察できる。

2. 日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と帰国後研修時での能力の成長の変化について6段階(6=十分備えている、5=備えている、4=ある程度備えている、3=あまり備えていない、2=備えていない、1=全く備えていない)による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

「コミュニケーション能力」については、

3.8から5.0となり、1.2ポイントの増。

「異文化に対応する能力」については、

4.1から5.4となり、1.3ポイントの増。

「チャレンジ精神」については、

4.1から4.9となり、0.8ポイントの増。

「問題解決能力」については、

3.6から4.9となり、1.3ポイントの増。

「企画力」については、

3.2から4.3となり、1.1ポイントの増。

「マネジメント力」については、

3.1から4.6となり、1.5ポイントの増。

(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

伸び幅が最も大きかったのは、「マネジメント力」であった。その理由として、研修を始め15日間の訪問国活

動において、日本参加青年は、それぞれが役割分担をしながら集団行動を行う中でチームを一つにまとめる機会が多く、そのような活動が能力の向上に大きな影響を与えたと考察できる。

次に伸び幅が大きかったのは、「異文化に対応する能力」と「問題解決能力」であった。

「異文化に対する能力」は、韓国において様々な韓国青年等との交流やホームステイ等が用意されており、直接的な交流を通じて、異なる習慣や考え方に対応する能力の向上に大きな影響を与えたと考察できる。

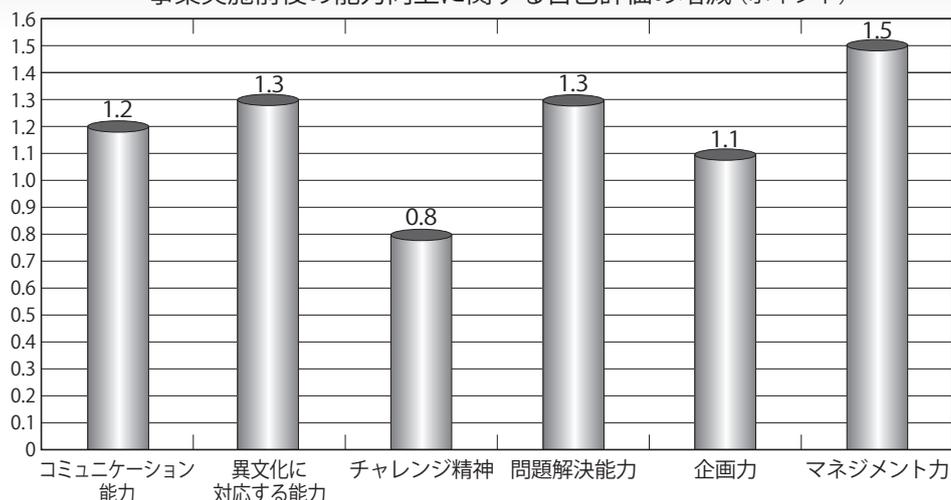
「問題解決能力」の向上は、派遣団における意見の相違や、訪問国活動中の突発的な環境の変化が生じた場合に、どのように対処すべきかを経験として身に着けることができたことが大きな要因と考察できる。

②社会貢献活動への意欲

「事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか〔1-(9)〕との問いに対して、日本参加青年は88%が5段階評価の4(ある程度意欲を持った)以上を付け、高い評価であった。

一方、5段階評価の3(どちらでもない)や2(ある程度関心を持つようになった)と付けた日本参加青年も12%おり、本事業の参加を通じて社会貢献活動への意欲を大きく向上させるには引き続き検討の余地があると思われる。

事業実施前後の能力向上に関する自己評価の増減 (ポイント)



3. 韓国招へい青年の成果

①日本に対する印象の変化

「この事業に参加して日本に対する印象は変わりましたか [3- (1)] の問いに対して、韓国招へい青年は92%が5段階評価の4 (良くなった) 以上を付け、極めて高い評価であった。また、その他の韓国招へい青年は3 (変わらない) を付けており、「元々良い印象を持っていたため、特別変わった変化はなかった」というコメントからも、日本に対して好意的なイメージを持つ青年が多いことが考察できる。

②事業に参加して得た成果

「この事業からどのような成果を得ましたか (複数回答可) [1- (4)] の問いに対して、韓国招へい青年は27名中23名が「日本の社会事情や日本の文化について理解を深めることができた」を選択し、27名中18名が「人脈を拡大したり、多くの友人を得たりすることができた」を選択した。

これらの評価から、事業に参加することで日本に対する理解を深めるだけでなく、日本の友人を作ることができ、韓国の青年はそれを成果として捉えていることが考察できる。

Ⅲ 総括評価

最後に、アンケートの総合評価を含めて、今回の総括評価をまとめる。

<日本参加青年>

「事業全体をどのように総合評価しますか [1- (2)] の問いに対して、日本参加青年は全員が5段階評価の4 (良かった) 以上を付け、極めて高い評価であった。

<韓国招へい青年>

「この事業をどのように総合評価しますか [1- (2)] という問いに対して、韓国招へい青年は全員が5段階評価の4 (良かった) 以上を付け、極めて高い評価であった。

日本参加青年、韓国招へい青年共に、全員が5段階評価の4以上を付け、多くの青年が本事業を高く評価していることが分かる。

日本参加青年からは「自分が今まで知り得なかったこ

と、出会ったことのない人に出会い、幅を広げることができた」「韓国青年との交流が楽しく、感謝の気持ちが忘れられない」等のコメントがあった。

また、韓国招へい青年からは「単に文化交流だけではなく、いろいろな考え方に刺激を与えてくれるところが非常に良かった」「たくさんの日本の地域を回りながら多様な人々に出会うことができ良かった」等のコメントがあり、そのような諸点を勘案してみると概ね、日本と韓国それぞれにおいて現地青年等との交流活動等の各種プログラムを通じて、両国青年相互の理解と友好の促進を図るとともに、参加青年の成長に良い影響があったものと結論づけられる。

以上、評価結果から導き出せることは、本事業の目的である「日本と韓国の相互理解と友好の促進」に関して、日本参加青年及び韓国招へい青年が共に事業参加による効果の認識を示すなど、十分な成果を収めたものと評価できよう。